

梅ヶ丘駅前周辺案内板

Setagaya-ku Tokyo 2006

<ワークショップで自分の街を案内するサインづくり>

<コミュニケーションの場所づくり>

計画敷地：東京都世田谷区

発注：世田谷区

設計：2003～2004

工期：2005

2006 SDA賞 入選



みんなで表示内容を考えてサイン版を2本の柱が支えます。一本はインフォメーション、ふれあいのアイです。もう一本は今までの優しいまちづくりの時間の積層を象徴する煉瓦の柱です。

梅ヶ丘周辺は都立光明養護学校、総合福祉センターなどの公共施設が集中し、あらゆる人に優しいまちづくりに先進的に取り組んできた歴史を持っている。今回小田急線高架化に伴う駅前広場整備に伴い、案内サインをつくることになったが、ここでもワークショップで多くの人に参加してもらい、あらゆる人々にわかりやすく使いやすいサインをつくることに試みられた。

梅ヶ丘駅周辺案内板が出来るまで

一緒にでも「みやすく」「わかりやすい」案内板づくり

やさしいまちづくり
小田急線梅ヶ丘駅周辺は福祉施設や公共施設が多く、世田谷区の福祉的環状整備推進地区として地域の方々にともにまちを整備してきました。今年、駅周辺の整備が進み、南口と北口が自由通路で結ばれました。これまでの成軍を踏まえ、よりやさしい視点に立った公共サインを市民の方と一緒に作成しました。

ここに注目！梅丘のまちづくり
世田谷区福祉のい・ま・は 福祉条例に基づく「福祉的環状整備推進地区」として位置づけられる梅ヶ丘駅周辺地区では、以前からユニバーサルデザインの視点からまちづくりが図られてきました。すべての歩行者が安心して歩ける道の整備や、福祉的環状整備ワークショップを行うなど「福祉のまちづくり」の先進地としての発展を期してまいりました。

ここに注目！案内板をつくるには
地図上のわかりやすさは、人を案内する色の伝えやすさにつながります。まちは変わるものと変わらぬものがあるため、サインをつくるときには、この情報を入れるのが注意が必要になります。変わるものとして、町名、道路名、方向、公共施設などの情報を案内板に案内するための目印にすることが出来ます。地図に入れない情報や目印と、案内上の文字を小さく表示しなくてはなりません。地図上の文字を見やすい大きさにするには、地図に入れない情報を必要に応じて省略する必要があります。

ここに注目！ワークショップでマップづくり
ワークショップ「サインはし」では、市民の方々が提案を出して整理した情報を取り込んだマップを作成しました。そこで大さきの漢字や数字を用い、どの大さきの文字が一番見やすいかの意思を決定しました。同じように、マップの色合いについても提案を行い、公共施設の色や道路・道路の色などを見やすい色を選びました。ここで選ばれた案内板は実際の案内板に反映されています。

マップづくりでは、みやすく、わかりやすさに加え、案内板に作るにはどうすればいいかの提案も受け、ワークショップでのサインづくりの基本方針がまぎまぎと決まりました。

今までの駅前案内板
梅ヶ丘駅周辺には福祉施設が多く立地しているため、以前から大さきの漢字や数字のサインの計画がなされてきました。しかし、高齢者や障害者の利用が難しく、案内板や案内板の設置状況などから利用しにくい案内板への改善が求められていました。誰もがわかりやすい案内板から、一人でも多くの人に「みやすく」「わかりやすい」サインはどのようなものか考え、ワークショップで意見を交換し、基本的な方向性の提案をまとめました。

案内板づくりワークショップ「サインはし」
初めて独自に来る方、新しい方、新しい方、高齢者の方、高齢者の方、外国人の方やサインを利用する人は様々なニーズがあります。誰もがわかりやすい案内板から、一人でも多くの人に「みやすく」「わかりやすい」サインはどのようなものか考え、ワークショップで意見を交換し、基本的な方向性の提案をまとめました。

ワークショップで4回行われ「案内板のサイン」についての協議会
→「まち歩き」「福祉的環状整備」→「案内板をつくるワークショップ」→「まち歩き」という順に提案を整理してまいりました。ワークショップ開始前に実施していたワークショップ「文字の大ささを決めるワークショップ」も実施し、「まち歩き」も実施しました。梅ヶ丘の駅周辺をのぞいてきたワークショップ「文字の大ささを決めるワークショップ」も実施し、「まち歩き」も実施しました。梅ヶ丘の駅周辺をのぞいてきたワークショップ「文字の大ささを決めるワークショップ」も実施し、「まち歩き」も実施しました。

住民の方による検証
ワークショップ「サインはし」での提案が反映されている案内板の検証として、区民の方々に検証を行っていただきました。そこで、「みやすく」「わかりやすい」案内板にするための新しいアイデアの提案も受けました。設計段階での検証を行うことで、具体的な指針や提案を市民の方から聞くことが出来ました。

新しくなった駅前案内板
「サインはし」で決めた「案内板」と共に「案内板としてのサインづくり」をコンセプトに新しい案内板は計画されました。情報の出し手（区民の方）と案内板のコミュニケーションの場としてサインはし、これからのユニバーサルデザインのまちづくりを推進してまいります。利用する方が安心して使えることが、これからのサインにとって必要不可欠なこととなります。

発行 世田谷区福祉推進課まちづくり部まちづくり課
TEL: 03-5478-8031 FAX: 03-5478-8019
企画・編集 磯設計・計画 高谷時事務所
TEL: 03-3942-5191 FAX: 03-3942-5192



ワークショップの様子



場所作りとしてのサイン
案内サインは区民の方と、梅丘をたどる人のコミュニケーションを促すものです。
案内案内板と共に、コミュニケーションの場をつくる役割があります。

駅前に「ほっとできる」場所をつくる！
つかの間に「ほっとできる場所」を設計したい
移動の切り替えポイントで一歩つくる場所をつくる

- 三つの方針**
- 1. 分かりやすく、人のたまりを促す場所に設置する**
案内板は駅からの人の流れに沿ってわかりやすく、同時に人の流れを外れた、たまりの取れる場所に設置しています。
緑地や、ツールも場所をつくる要素として取り入れています。
 - 2. 福祉のまちづくりの先進地であることを表現する**
やさしい案内板を、緑地のデザインに取り入れています。
あらゆる人に優しい、あらゆる人々の笑顔、かたづけられています。
 - 3. みんなで作ってきた整備の歴史を継承する**
地区のイメージともなっている「レンガ」をデザインに取り入れています。
これまで使われていたサインに埋め込まれているレンガを、再利用しています。

緑地とツールでほっとできる場所を提供する



サインボードの木の部分がこの場所をつくりだします。
床の木の部分が広がるパワースタイルのブロックで「ほっとできる場所」を創りだすイメージを演出します。

いままでの緑地を再利用する



整備前のサインが埋め込まれていたレンガを、見えずく同時に歩行の障害にならないようサインボードの下に埋め込んでいます。

サインボードを支える2つの柱



ひとつはインフォメーションのアイ（ふれあいのアイ）の字形。もうひとつは時間の積み重ねを象徴するレンガの積層で案内板を支えています。いずれも明確な線が通りやすく、圧迫感のない印象になっています。